

保育北九州

平成29年10月1日

発行 (一社)北九州市保育所連盟
〒805-0019

北九州市八幡東区中央2丁目1-1

(レインボープラザ5F)

電話(093)661-2153番

発行人 酒井光義

編集人 日野真人

2017 189



おともだちと花畑 (5歳児の作品)

〈提供 戸畑支部〉

表紙	1
「北九州市保育園フェア」インタビュー	2～3
仲間たち	4～5
研修・一期一会	6
支部近況	7
雑感・編集後記	8

「北九州市保育園フェア」インタビュー

平成29年7月24日
於…長浜保育園会議室

今年度で5年目となる北九州市保育園フェア（保育士就職支援説明会）について、私保連担当副会長の岡村信久先生と、調査・研修委員長の仁科博光先生にお話を聞きました。

文中（岡村）…（公社）北九州市私立保育園連盟副会長 岡村信久先生

文中（仁科）…同連盟調査・研修委員長 仁科博光先生

文中（編集A）…G…保育北九州編集部

（編集A）先日（7月16日）に西日本総合

展示場で行われた北九州市保育園フェア2017保育士就職支援説明会（以下：フェア）、大盛況でしたね。

（岡村）おかげさまで130名超の参加者がありました。参加者・

ブース出展保育園ともに右肩上がりで増え続けています。これは担当者にとって大変嬉しいことです。



（仁科）北九州市も主催者として私たちと手を携えてくれていて、

フェアの会場には潜在保育士さん向けに「北九州市保育士・

保育所支援センター」もコーナーを設けて参加していただいています。行政と私たちが一体となっているなど感じます。ありがたいことです。

（岡村）北九州市には、フェアを実施するに必要な経費を補助していただいています。また、「北九州市奨学金返還支援事業」を今年度立ち上げていただきました。

この事業は今年度のフェアで参加者にご案内しました。北九州市の力強い後押しと保育園関係者の大きな協力によってこの事業は支えられています。フェアの成り立ちから教えて

（編集B）

いただけませんか？

（岡村）「保育士が足りない！」こんな保育現場の窮状を何とか打開したいとの思いから始まりました。このフェアが北九州市内認可保育園の情報を提供するイベントとして保育士養成校の学生さんや、潜在保育士に広く参加を呼びかけ、私たちの職場へ就職していただければとの願いを込めて取り組んでいます。

（編集C）保育士さんたちへアピールする場として始まったとお聞きしましたが、今では、広く保育

——保育園というものを知っていたただく場へと変わったようにも感じます。

（岡村）そうです。卒業年次生だけではなく下級生のみなさんも参加して下さっていますし、既卒の方の参加もあります。保育という仕事に携わろうとする方々だけではなく、これから

進む道筋に迷っているみなさんも、私たちの仲間としてフェアに迎え入れたいと考えています。そのことが浸透してきたことで、参加者増につながっているのだと思います。

（仁科）ただ、新卒者の数には限りがあるので、潜在保育士をもっと掘り起こさないと、このままでは保育士不足で定員割れを起こし、待機児童解消につながらないと危機感を持っています。

（編集D）われわれブースを出展する側は、自園へ就職してくれる方を見つけないと気が強くなりますが、それだけではなく、北九州市の保育のアップールの場として考えるべきなのだと気が



づかされたように思います。

(編集E) 開催時期は、ここ数年、7月から8月にかけて行われていますが、これは学生さん方の夏休みとの兼ね合いでしょうか？

(岡村) フェアに参加してくださる多くの学校の試験日が9月であることや、各学校のオープンキャンパス日程なども考慮しています。

(編集F) 各ブースにおける質問はどのようなものが多いですか？

(仁科) やはり休日をさいてフェアに来て下さる方々ですから、自分の進路として保育の道を歩もうとされている方が多いです。それだけに、園の特色や処遇に関する、具体的な質問が多いですね。



(編集G) 保育士資格を取得した後、大都市の保育園へと就職されている方はいるのでしょうか？

(岡村) 北九州も政令指定都市ではありますが、より規模の大き

い都市で保育士として働かれる方がいらつしやることは聞いております。ただ、そのような方も、数年後には北九州へ戻ってこられるとも聞いております。ですから、すぐに自園へ就職されなかった方であっても、将来は同じ園で仲間になるかもしれないので、できるだけ、北九州の保育園の良さを知っていただきたいと願っております。

(編集A) 実はうちの保育園でも、結婚後に北九州に来て、初めて保育士資格を活かされて当園で保育士を始められた方がいらつしやいます。縁はどこで結ばれるかわかりません。ですので、フェアでの出会い、一つ一つがとても大事なものに思えます。

(仁科) われわれ担当者は、できれば保育士確保について実務的な結果が出せるようにと考えて求職者と求人者のマッチングを大事にしています。そして、それと並行して、たとえ進む道は違おうとも、保育の仲間として遇していける場を作るべく準備してきました。

(編集B) フェアに参加するわれわれ園側に対する要望などがありましたらお聞かせ下さい。

(岡村) 参加してくださるみなさん方には感謝するばかりです。しかし、二つだけお願いするとすれば、未参加の園へもフェアの良い部分を伝えていただき、一園でも多く参加いただければ協力をお願いしたいですね。

(仁科) 参加する仲間の数が多ければ多いほど、訴求力も強くなると思います。

(編集C) 来年度は、フェアが一段とスケールアップしそうな予感があります。

(岡村) もっと大きなうねりを生み出していきたいですね。フェアではなく、フェスティバルくらいまで持っていきたいですね。

(編集D) お祭り、いいですね。

(仁科) 岡村先生から「発想の転換も大事」とお聞かせいただいています。ですから、新しい試みにも挑戦したいですね。具体的には、参加者には必ず何かを持って帰ってもらおう、というようなことです。それは「物」という意味だけでなく、たとえば「新たなクラフト」知らなかった伝

承遊びやわらべうた」などもあるな、と話し合っています。

(岡村) 若い先生方は、チャレンジ精神を持って、どんどんアイデアを出してくれています。「スマホと連動させては」「登録方法はQRコードを利用しては」：etc. 担当者一同力を合わせてやっつけていきたいと思っています。

(編集E) われわれもフェアから多くの刺激を受けました。

(岡村) 一目でその保育園の特色が分かるようなブースや気楽に立ち寄れる気配りのあるブースほど訪問者が多いようです。構成や展示の仕方に創意工夫が見受けられるブースに出会うと出展者の意気込みが感じられ、とても嬉しく思います。また、参考になることや学ぶことも多く、私自身大変勉強になっています。

(編集F) フェアは、われわれの学びの場でもあるのですね。そう考えると来年度のフェアが今から楽しみです。どうぞよろしくお願ひします。

以上文責：保育北九州編集長 日野真人



おひさまのいえ・もりのいえ

後編

保育北九州編集部で、保育所（園）が、子どもたちの宿泊や遠足として利用している緑地保育センターに伺いました。第1緑地保育センター「おひさまのいえ」の赤尾知樹所長、第2緑地保育センター「もりのいえ」の中村成人所長にこれまでの歴史や色々なエピソードをお聞かせいただきました。188号と189号の二回に分けて掲載いたしました。

Q. 第1緑地保育センター「おひさまのいえ」と第2緑地保育センター「もりのいえ」それぞれの特徴を教えてください。

A. 「おひさまのいえ」は、響灘緑地（若松区）のグリーンパークに隣接し、周囲は市内でも有数の景勝地です。また施設内は、太陽の光がいっぱいに差し込むように設計されており、健康的で明るいイメージです。また、屋外には草スキー場や、アスレチックそれに水遊びのための人工のせせらぎがあり、幼児たちに親しまれています。「もりのいえ」は、長野緑地公園内（小倉南区）にあり、里山に囲まれています。子どもたちは、常に自然に触れ、光や風を肌で感じる事ができます。施設は、全体的に広々としたゆとりある設計になっており、中央の中庭に空間を利用した回廊と滑り台があります。また、屋外には、水遊びのできるじゃぶじゃぶ池や、ピオトープを有する広場等があり周辺にも楽しめる空間が広がっています。



もりのいえ



もりのいえスタッフ



おひさまのいえスタッフ

Q. 2施設共同で何か取り組んでいますか？

A. 合同会議での行事スケジュール調整や職員の資質向上を図る交流研修会などを行っております。施設利用者の利便性をより高め、信頼関係を構築していくために、開所以来、常に安全で楽しく心に残るプログラムを提供すべく合同で取り組んでいます。

Q. 職員の構成を教えてください。

A. 「おひさまのいえ」の組織構成は、所長1名・指導員1名・保育士3名・非常勤数名です。「もりのいえ」の職員数もほぼ同じです。

Q. 職員の皆様にジョブネームをつけているとか？よろしかったら教えてください。

A. 「おひさまのいえ」職員の、ジョブネームは、所長の「しましま」を始め、くまのすけ・おだもん・りんりん・きよびい・るーちゃん・はりー・うさぴよんなどです。子どもたちからも親しみを込めて呼ばれています。「もりのいえ」の職員のジョブネームは、所長の「うつきー」を始め、うーたん・たまちゃん・ぎんちゃん・かえさん・ばんちゃん・くるりん・があこ・ぶーすか・みるくなどです。ジョブネームは自分で考えるのですが、自分の干支だったり、見かけだったりして、みんな考えるのを楽しんでいます。

Q. 緑地保育センターのキャラクターがいると聞きましたが、どのような設定ですか？



キャラクター

A.

「おひさまのいえ」には、「とんだーまん・べにくじやく」がいて二人は夫婦という設定です。男性職員と女性職員でキャラクターを使い分けています。嘘つきやいじわるな子が大好きで、見つけると「とんだ島」に連れていくという、子どもたちにとってちょっと怖い存在です。しかし、ゴリラ踊りを元気に踊れると大丈夫というチャームポイントもありません。手品師の「ぱおりん・ぱおりん」の二人も夜の集いに登場します。「もりのいえ」には「どんじゃらほい・ますからす」がいて、二人は「もりもり山」にすんでいて山の自然を守っているという設定です。二人は友達です。手品師の「びっくりー・どつきりん」の二

A.

は、最後にPRなどがあれば聞かせてください。平素から緑地保育センターをご利用頂きありがとうございます。これからの皆さまの期待や要望に込められるように努めます。宿泊以外のご利用や個人利用ができる主催行事もあります。また、保育所(園)の先生方も是非、緑地セミナーを受講いただき自然と触れ合えます。心からお待ちしています。

人も夜の集いに登場します。子どもたちには、どのキャラクターも大人気で、ちよつとドキドキするけれどとても楽しいと評判です。
Q. とても楽しそうですね。今後の活躍を期待しています。で



もりのいえ地図



おひさまのいえ地図

「インタビューを終えて」

二回に分けての連載はいかがでしたか？

「おひさまのいえ」「もりのいえ」には、引率者として伺ったことはあるものの、あらためて訪問し施設を見て回ると、今まで気づきもなかった場所に素敵な飾りや工夫がされており、細かい所の気づきに感動しました。そして職員の方々の子どもたちに接するやさしい心遣いと配慮にも感じました。また、施設に降り注ぐ明るい陽射しと心地よい風に癒され、子どもたちにとって、ここで過ごす時間はきつと日常とは、かけ離れた時間空間になっているのだらうと思います。お忙しい中、インタビューに答えて頂き有難うございました。

インタビュー(保育北九州編集部)

寄付

(一社) 北九州市保育所連盟
北九州市保育士会

へご寄付

子ども家庭局保育課 保育指導
担当課長 山田 智子様よりご母堂
様の初盆に伴い、保育事業発展の
ためご芳志を頂戴いたしましたの
で、ご報告申し上げます。

研修・一期一会

第4回 九州保育三団体研究大会 長崎大会

「すべての人が、子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」

平成29年7月19日～21日の3日間、長崎市において第4回九州保育三団体研究大会が開催されました。初日のメイン会場、長崎ブリックホールでは式典の始めに、7月に発生した九州北部豪雨災害の被害に遭われた方への黙とうを行い、前年



発生した熊本地震時の支援への感謝を熊本支部の方が話されると相まって、困難な中でも

子どもの育ちのために「九州はひとつ」を実感し、保育を行わなければならないの思いを強くしました。

基調講演は、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課課長補佐、坪井宏徳氏による「保育分野の現状と取組について」でした。子ども・子育て支援に必要な財源の確保、平成29年度における子ども・子育て支援の「量的拡充」と「質の向上」、保育士等（民間）のキャリアアップの仕組み、処遇改善、改定・保育所保育指針等について資料を基に詳しく説明がありました。

2日目は各分科会に分かれての研修でしたが、私は「配慮を必要とする子どもや家庭への支援に向けて」をテーマとする第2分科会に参加しました。分科会では大分県立東保育園「児童票の発達記録を用いて子ども、保護者、園との協働支援を目指して」、宮崎県・鳴峰保育園「子どもの育ちを保障する」配慮を必要とする子どもや家庭への支援



ど実践に即した具体的な話を聞くことが出来ました。

3日目は、活水女子大学音楽部特任教授、藤重佳久氏による記念講演と活水中学校・高等学校吹奏楽部による記念演奏があり、楽しいお話と素晴らしい演奏を聴きました。「音楽は楽しく、笑顔は心のビタミン」「音楽はメロディ・リズム・ハーモニー」と、子どもに歌や楽器の指導をする上で大切なことを再確認することが出来て、心温まる時間を過ごしました。

大会の最後は大会宣言と次の開催地である熊本市への引継ぎが行われ、大会の幕は下ろされました。メインテーマである子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現のため、保育を取り巻く環境が変化をしても保育の質の向上に励み、子どもの育ちのため職員間で切磋琢磨していきなさいとあらためて思う実り多い研修大会でした。

あおぞら保育所 池内文恵

支部
近況
第15回
小倉南区篇

平成28年度第46回
北九州市保育所連盟
ボウリング大会優勝の軌跡



今年の2月5日に北九州市保育所連盟のボウリング大会が開催され小倉南支部が1位の栄冠に輝く事ができました。以前は予選でも勝ち残れるわけがない等と消極的な声も聞こえており、やる気のなさが伝わってきました。市の大会での順位も、下から数えた方が早いくらいでした。これは支部を挙げて何とかせねば...という思いから、3年前に、その年の支部予選で勝ち残った選手にレッスンプロによる講習を受けて貰うことで、徐々に力をつけてまいりました。

そして、今年度は支部予選1位〜3位の選手には、マイボウル、マイシューズ、バックの3点セット、4位〜6位の選手にはマイシューズを賞品として支部から出して頂く事になり、選手のみなさんも大変力が入っていた様に見受けられました。



また、今年の講習の際、マイボウルを手にした選手の皆さんのレッスンを拝見させて頂いた際、今までにない、本気度と心からボウリングを楽しんで頂けている事を実感しました。

3年間ボウリングの担当をさせて頂いてきて一番嬉しい事でした。

これからも「ボウリングは南支部」と言われる様に頑張っていきたいと思えます。最後に、選手のみなさん、おめでとうございました。そして、有難うございました。

守恒保育園 仁科博光

春の研修旅行
今年できたミクニワールドスタジアムで
ギラヴァンツを応援しました！



6月10日(土)、ミクニワールドスタジアムで行われた「ギラヴァンツ対ガンバU-23」の試合観戦に行ってきました。一度見てみたかった地元北九州のチームの試合がオープンしたてのスタジアムで観戦できると、とても楽しみにしていました。

スタジアムに入ってまず驚いたのは、スタンドとフィールドの距離が近いことです。

今にもボールが飛び込んできそうな席に座りました。キックオフの時間が近づくとつれスタンドがギラヴァンツのチームカラーである黄色のユニフォームやタオルで埋めつくされました。それから息の合った



サポーターの声援で盛り上がって、私もドキドキしながらその時を待ちました。そして、キックオフ。目の前で繰り広げられる

熱戦とサポーターの熱い声援に興奮し「いけー！」と夢中になって応援しました。試合は、コーナーキックからの水永選手のゴールで先制。「わあー！」と会場がひとつになり、私もおもわずガッツポーズをして周りの先生と喜びあいました。後半には、GKの高橋選手がクリアしたボールが、なんと場外の海へ。これにはとても驚きました。

試合は、途中1点を返されたものの、加藤選手もゴールを決め、2-1でギラヴァンツが勝利を収めました。今回初めて春レクに参加しましたが、先生方と一緒に応援したり、喜びあったりと楽しく試合を観戦することができました。これからもギラヴァンツを応援しました試合を見にいききたいなと思いました。ありがとうございました。

花園保育園 田中奈津美

ぼくのかお

(5歳児の作品)



私が保母(保育士)になったのは、昭和三十年。今から六十二年前です。就職したばかりで無我夢中。そして保育の制度が混沌としている中で、忘れることのできない体験がありました。その頃の日本は、朝鮮戦争の特需で活気付いていたもののまだ国内の経済状態は低迷していて、多くの人の生活は決して豊かではありませんでした。私たちをはじめ、子どもたちの食事もう貧しいものでした。栄養失調気味で顔色の悪い子どもが多く見られました。

その中で特に気になるK君は、もう何日も保育園を欠席していて姿を見せられません。K君の近所の子どもから、「K君は町に落ちていた鉄クズや釘を兄姉と一緒に拾っている」との話を耳にした私は、或る日、地図を片手にK君の家を訪ねました。道が解らず何時間も歩き、途中出会った人にくら尋ねても分かる筈がありません。K君の家は山の上にお父さんが建てた、いわゆるバラック建ての家でした。やっと探しあてたとホッと安堵して、K君の名前を呼びながら家に入りますと、床には板が敷いてあるだけで、家具らしきものは部屋の中には何も見当たりませんでした。また、床に敷いてある板はケバ立ち、座れば痛そうでした。私の声を聞いたK君は、今までに見せたことのない嬉しそうな照れたような、にっこりとした笑いを見せて、私の前に現れました。その笑顔の美しかったこと。天使のように見えました。その笑顔は私の脳裏に刻み込まれ、こうして思い出していますと、六十二年経った今でも昨日のことのように、目の前に浮かんでくるのです。

その時K君は、嬉しくて堪らない気持ちを私に伝えようと辺りを見回しました。その当時五才だったK君の家には鉛

筆一本クレヨン一本、絵本の一冊もありませんでした。しかしK君は見付けたのです。大切なK君の宝物を！

それは自分のお茶碗でした。少し欠け、色も鮮やかではありません。しかしK君は、両手で自慢げに「これ僕のお茶碗」と見せて、私をもてなしてくれました。私は次の言葉が出ずに、K君の目を見つめ、涙を見せずに笑顔を作るのがやっとでした。

初秋からそろそろ冬を迎える時期だったので、夜はどうしているのかと聞いてみますと、一枚の布団に五人の家族がこたつに足を入るようにして眠っている様子でした。電気も水道もありません。お父さんが一日働いて得たお金で、ローソク一本とみんなの食べる物を買ってくるのでした。そのローソクの火の消えない内に寝床につき、水は山を下りバケツでもらに行くのです。私はいつも真っ黒に汚れ、瘦せて目玉だけ大きくギョロギョロしているK君の毎日の生活がよく解りました。そしてK君に心からの愛情を持ってていなくった自分の心を責めました。

秋の日暮れ前の夕焼の空の美しい帰り道、誰もいない山道を下りながら耐えきれず嗚咽してしまいました。このようなK君の生活環境の中で、失われていない幼い子どもの心の美しさが神様にも増して尊く感じられました。そしてその時、私は保育士を一生の仕事にしようと思っただけです。

保育士、園長として六十余年、不易の教訓として、「子どもの姿、行動を表層的に捉えないこと、子どもの心の中にとび込むこと」を深く胸に止めました。そして今日も、「どうしたの、聞かせて。」と子どもたちに問いかけているのです。

ふたば保育園 松田トシ子

編集後記 — 縄文杉 —

「ただの木に過ぎない縄文杉を見て感動できるのは、人の心が価値を創り出しているからだ」(東京新聞2017年2月25日)。これは海老原宏美さんが、相模原市の障害者施設で19人が刺殺された事件に対して寄稿した文の一部です。海老原宏美さんは、自身、重度の障害である脊髄性筋萎縮症に苦しみながらも障害者の権利を護る運動を続け東京都女性活躍大賞を受賞されています。海老原さんは寄稿文において「私は価値ある人間と価値のない人間という区別や優劣があ

るとは思っていない。ただそこに静かに存在するだけの人間に尊厳を見いだすことも人間だからこそできるはずだ。存在するだけで社会に<価値とは何か>を問い続ける。そんな重度障害者は存在しているだけで社会に大きく貢献しているとは言えないだろうか」と書いておられます。わたしも子どもたちを見る時、ありのまま——そのままの人間の尊厳を感じていけるような保育者になりたい。

「保育北九州」編集長 日野真人